

大会長挨拶・開催趣旨

第6回 全国研修会大会長 藤岡 聡（こんどうクリニック）

このたび、一般社団法人体表解剖学研究会第6回全国研修会を、2018年6月23日（土）～24日（日）の2日間にわたり、愛知県名古屋市にあります「名古屋学院大学・名古屋キャンパス白鳥学舎」を会場に開催する運びとなりました。開催に際し、会員の皆さまをはじめ、実行準備委員のご支援・ご協力に対し、心よりお礼申し上げます。

本研究会では、これまでに骨および筋の詳細な構造を3次元的に解明、かつこれらを体表から正確に触察する方法やその伝達方法を開発し、得られた知識・技術を普及するためにセミナーを開催してきました。2017年の今、本研究会はこれまで会を牽引して頂いた磯貝 香先生から明瀬 敬二先生に会長職を、河上 敬介先生から壇順司先生に監事職をバトンタッチし、新たな風を起こす動きが始まりつつあります。その一つとして、これまで研究会で取り上げてこれなかった、新しい分野の発展を目的とするワーキンググループ4つが立ち上がりました。

そこで本全国研修会は、テーマを「体表解剖学研究会の歩む道 ～課題抽出と針路決定～」とし、この新たな試み、ワーキンググループの活動第1弾として、これからの体表解剖学研究会が取り組んでいく課題を共有する場にできればと思います。

そのために本全国研修会プログラムは、新会長の明瀬 敬二先生による本研究会の今後の方針について「体表解剖研究会の歩む道」と題するご講演でスタートを切ります。続いて、新たに立ち上がった4つのワーキンググループより、1. 現状の国内外における位置付け、2. 課題提起、3. ワーキンググループとしての対策、4. 現状の成果と今後のための中・長期計画の手順でシンポジウム形式での活動報告をしていただく予定です。また、新たな風を吹き込む急先鋒として臨床で体表解剖学を活かしていらっしゃる先生方に、ミニレクチャーとしてご講演頂きます。

最後にこの研修会が実り多いものとなるよう、実行準備委員一同準備を進めてまいりました。これを機に体表解剖学研究会がますます発展し、会員の皆様一人ひとりがますますご活躍いただけるよう祈念しまして、ごあいさついたします。